

【定時制】 令和元（平成 31）年度 学校評価

視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 23 日実施)	総合評価 (3月 30 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況(中間評価)	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>多様な選択や学習機会を提供する教育課程の工夫を重ねるとともに、外部との連携を進め、幅広い生徒の学習希望に応える。</p> <p>生徒の学習習慣の確立と学習意欲の向上にむけ、各教科における基礎学力を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を育む取組を充実させる。</p>	<p>①新学習指導要領に沿った授業改善の取組を継続するとともに、総合学科の特色を活かした多様な単位修得機会の充実と、基礎的な学力の定着を推進する。</p> <p>②よりよい多文化共生教育の在り方を探り、職員全体で情報共有を図る。</p>	<p>①外部との連携を図り、校外講座、技能審査、実務代替、ボランティア活動、インターンシップ、定通併修などの取組を改善し、きめ細かく支援する。新学習指導要領に沿った教育課程の編成及び授業改善の取組を継続し、必要に応じて研修等の機会を設ける。</p> <p>②多文化共生教育ワーキンググループを中心に、支援を必要とする生徒への具体的な方策を研究する。</p>	<p>①多様な生徒にきめ細かく対応し、多くの生徒が単位修得に向けて様々な取組を活用することができたか。(多様な単位修得の状況及び改善の状況、制度改善や改善後の状況等)新しい教育課程編成に向けて研究を行ったか。「主体的、対話的で深い学び」を授業に取入れて展開できたか。授業を互観する機会があったか。</p> <p>②支援を必要とする生徒の情報をきちんと共有し、研究活動をベースとした的確な支援が展開できたか。</p>	<p>①校外講座 10 名、技能審査 2 名、ボランティア活動 2 名、インターンシップ 1 名、実務代替 2 名の生徒が単位取得に向け活動中である。昨年度導入した「半期卒業制度」により 1 名が卒業した。</p> <p>②授業研究のテーマを「基礎的な学力の定着を図る」とし、新学習指導要領が目指す「主体的、対話的で深い学び」の視点で授業互観・研究協議を行った。県より配布された ICT 機材の活用方法を研究した。</p> <p>③通訳支援に加えて、取出し授業で設定した「ともに授業に参加する学習サポート員」の活用について研究を進めた。</p>	<p>①インターンシップについて、仲介業者と連携し受け入れ先の開拓をはかる。</p> <p>②新学習指導要領に沿ったカリキュラムの改訂を行う。</p> <p>③定期的な情報交換の場を設定できるようにグループが主導していく。</p>	<p>①生徒が卒業を目指して様々な活動をし、単位取得に向けて様々な努力をしていることが分かった。柔軟な制度を活用して半期卒業生を出すなどの成果もあった。今後も生徒一人ひとりに合わせた支援を進めてほしい。</p> <p>②ICT の活用に対する前向きな努力がうかがえる。今後の成果に大いに期待する。</p> <p>③多文化共生教育の推進につながる活動の実施や、各生徒の情報共有が良く図られている。</p>	<p>①学校外の学習による単位認定をはじめ、ボランティア活動、インターンシップなど様々な学習を実現する環境整備を推進したが、生徒数の減少もあり、総合学科の多彩な学びを維持することは容易ではない。</p> <p>②県より新たに配備されたタブレット端末を授業に積極的に取り入れるなど、ICT を活用し生徒の興味関心や意欲を引き出す授業づくりを実践できた。今後の段階として BYOD の活用について検討を進める必要がある。</p> <p>③多文化教育コーディネーターと連携し通訳支援のほか、文化的背景や考え方を考慮に入れた指導も取り入れた。</p>	<p>①生徒数の減少が進み、総合学科の特色ある選択科目などにおいて講座の受講者数が減少している現状がある。総合学科の特色と多様な単位修得機会を維持しながら効率的に指導ができるよう、設置科目や制度の運用の見直しに取り組む。</p> <p>②定時制の生徒に対する日々の授業での ICT の活用は、教科指導を進める上で大きな効果が認められる。今後は BYOD の活用を実践するため、具体的な運用について検討を推進する。</p> <p>③多文化教育の更なる充実をめざし、それぞれの生徒の状況に合わせた指導を行うため、「ともに授業に参加する学習サポート員」の活用を推進する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>生徒会活動や部活動の充実により、豊かな人間性の育成を図るとともに相談体制に努め、生徒が楽しく学べる安心・安全な学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒会活動や部活動を通じて豊かな社会性の育成を目指した指導を進める。</p> <p>②組織的な教育相談体制の充実を引き続き推進する。</p>	<p>①様々な活動の意義を伝え、生徒の参加意識を高める。また、生徒が相互に協力し、主体的に活動ができるよう支援する。</p> <p>②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、教育相談定例会議を開く。特別な支援の必要な生徒の情報を共有し、組織的な相談体制を構築する。</p>	<p>①生徒会活動や部活動は活性化されたか。生徒の意識は向上したか。(行事参加率や部活動の加入率及び活動実績、生徒アンケート結果等)</p> <p>②特別な支援が必要な生徒に適切に対応し、改善を図ることができたか。(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用とその効果、生徒アンケート結果等)</p>	<p>①部活動及び学校行事に参加する生徒の意識は高く、積極的に取り組んでいる。しかし、生徒の加入率及び参加率は昨年度とあまり変わらず、向上させることができていない。</p> <p>②教育相談定例会による情報共有やクラス担任からの相談によりスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携は強化されており、外部とのつながりにもなっている。</p>	<p>①生徒がより主体的に活動ができるよう支援を行う。部活動や学校行事への参加による社会活動へのつながりなど、活動がキャリア発達を促す指導とも関連付け、生徒の意識を高める働きかけを行う。</p> <p>②今後も多くの生徒の情報共有を図り、多様な生徒の対応に努める。</p>	<p>①部活動及び学校行事に参加する生徒の意識は高いが、参加者が少ない現状がある。これらの活動がキャリア発達に効果がある事を理解させ、参加を働きかける必要がある。また生徒のニーズを把握し生徒が求めるスタイルの検討も必要である。修学旅行は費用が高額だと感じる。よりリーズナブルな費用設定は検討できないか。</p> <p>②教育相談定例会議を定期的に開催するなど組織的な相談体制が整っている。</p>	<p>①自転車部及びバドミントン部は、全国大会を始めとした大会で活躍したり、県の表彰を受けたりするなど、積極的な活動を行うことができた。しかし全体的には部活動加入率が低い状態にあるとされている現状が改善できない。文化祭やスポーツ大会も部活動同様に参加者の一部に意識の高い生徒がいるが、全体としては生徒の意識は低い。</p> <p>②生徒数は減少傾向だが支援が必要な生徒数は変わらない感がある。また複雑な状況を抱える生徒の比率は依然高い現状がある。</p>	<p>①スポーツ大会においてパラスポーツ『ボッチャ』を取り入れるなど競技種目の見直しを試みたところ、生徒に好評だった。このあと生徒への調査を行ってニーズを把握し、行事や部活動の活性化につなげていきたい。また修学旅行についても、生徒保護者への調査を行い検討する。</p> <p>②教職員だけの対応には限界があるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのほか、外部機関との連携を推進し体制の強化を図る。</p>

3	進路指導・支援	入学から卒業までのキャリア教育の体系化を図り、生徒のキャリア発達を支援する。	①生徒のキャリア発達を促す効果的な教育活動を引き続き推進する。 ②進路指導体制の更なる充実を図り、生徒の進路実現に向けた指導を推進する。	①消費者教育・道徳教育及び政治参加教育を含めたキャリア教育を推進する。「総合的な探究の時間」の指導計画の中にキャリア教育・シチズンシップ教育を位置付け、効果的な指導の実現を目指す。 ②外部機関との連携を積極的に拡大するなどガイダンス機能を充実させ、生徒個々の進路希望に応える支援を進める。	①「社会とかかわる力」は身に付いたか。(模擬投票実施状況、アンケート結果等)「総合的な探究の時間」の検討を深め具体的な指導計画を作成できたか。 ②生徒が望む進路実現を図ることができたか。(進路決定者数、アンケート結果等)	①7月に実施した模擬投票では、事前指導に参加した生徒のほぼ100%が投票を行った。「総合的な探究の時間」指導計画の作成を進めた。 ②就職・進学等生徒それぞれの進路希望実現に向けて、取り組んだ。特に面接指導や作文指導はきめ細かく実践できた。「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等のガイダンス的講座の実施にあたり、外部講師の支援によるより効果的な指導を追求した。	①18歳成人を控え、政治参加教育に加え、消費者教育を充実させる。 ②生徒それぞれの進路実現にむけ、よりきめ細かく取り組んでいく必要がある。	①消費者教育及び政治参加教育を含めた指導計画が良くなされており、効果的な教育が実践されている。模擬投票で登校生徒の投票率100%達成は素晴らしい。18歳成人教育は重要。ぜひ社会の一員となる事の自覚と誇りを持たせるよう指導願います。 ②進路実現に向けたキャリア教育において、積極的に外部講師の支援を得るなど外部との連携は効果がある。生徒一人ひとりの背景に合わせてきめ細かく相談に乗り、希望の進路実現にむけて指導してあげてほしい。	①シチズンシップ教育の一環として政治参加教育を積極的に推進した。模擬投票については政治的中立に留意し、思想信条など個人情報にも配慮しながら指導を行い、高い参加率を達成できた。 ②1年次「産業社会と人間」や、2・3年次「総合的な学習の時間」において、卒業後の進路実現に向け各年次ごと効果的な指導を実践するため、外部講師による講演を積極的に取り入れた。また4年次については、生徒の実情に合わせて、きめ細かく就職・進学指導を実践した。	①選挙権年齢の18歳への引き下げもあるが、定時制には20歳以上の成人も多く在籍していることから、主体的に社会に参画するための姿勢や力の育成に向け、今後も新たな工夫を取り入れながら政治参加教育を推進する。 ②キャリア教育の実施にあたっては、引き続き外部機関と連携を取りながら効果的な指導が実現できるよう計画をするが、校内においては年次間で学習内容が重複することの無いよう調整を図り計画の策定にあたる。
4	地域等との協働	家庭や地域との協働・連携、学校間連携等を推進し、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを進める。	①保護者や中学校・地域に対し、本校の教育活動内容を積極的に広報し、一層の理解の深化を進める。 ②保護者や地域の方の学校行事への積極的参加を促すなど、連携・協働の活性化を進める。	①中学校や地域の諸機関との連携を密にするとともに、情報発信の手段として学校案内や生徒支援活動の充実を図る。 ②PTA活動を活性化させ、保護者の学校行事への参画・協働を推進する。	①広報活動を活性化し校内生活等の内容を広く発信することにより、入学志願者に丁寧に説明することができたか。地域と連携し教育活動を効果的にいかにすることができたか。 ②文化祭を始めた学校行事や、校外行事への保護者の参加・協働を推進し、効果的に実施することができたか。	①学校説明会や中学校訪問での説明内容の精査と工夫により本校の教育内容を理解してもらうことができた。また、情報発信の手段として学校案内の内容充実を図ることができた。学校説明会ではパネル等の掲示物により入学志願者への丁寧な説明を行うことができた。 ②夏季休業中のPTA研修会、10月の文化祭においても多くの参加者により充実した活動を行うことができた。	①近隣の中学校を重点的に訪問することにより広報活動と説明の充実をさせる。 ②PTAの役員だけでなく一般の保護者の行事参加をより一層推進する。	①広報の活性化・深化として学校説明会及び中学校訪問など直接対面する機会での取組を着実に進めている。経費及び人的な制約もあることから、ホームページの一層の活用も望みたい。年々生徒数が減少している中、学校の特色や魅力を発信する広報活動の更なる充実を進めてほしい。全日制との隔たりを取り払うことも検討してほしい。 ②PTAの役員だけでなく、一般の保護者も学校での様々な活動に参加しやすい雰囲気づくりに期待する。	①学校説明会や相談会で、本校定時制の特色を伝えるとともに来場者への個別の相談に応じた。また職員が分担して近隣の中学校へ訪問しての説明も実施した。ホームページについては更新を心掛けているが、ネット経由の情報収集が一般的になっている昨今は、より効果的な進捗が必要であると考える。 ②文化祭ではPTAによる模擬店の運営が好評だった。また保護者対象に授業見学会を実施した。	①学校説明会については、本校主催の説明会のほか、地区や定通合同の説明会にも引き続き参加するとともに、不登校説明会や日本語を母語としない生徒向けの説明会にも積極的に加え個別相談にもきめ細かく対応を行う。説明会などで使用する学校案内について、写真やイラストを増やしてより親しみやすくなるよう改善を検討する。 ②教育活動への保護者の参加・協働の促進に関しては、PTAからのアイデアを募るなど改善に向けた検討を進める。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止を徹底し、信頼される学校づくりを推進する。生徒の防災意識を高めるとともに、安全対策を一層強化する。	①職員の意識の向上を図る働きかけを引き続き行い、事故・不祥事を起こさない。 ②防災教育を充実させ防災意識の向上を図るとともに、校内の施設・設備の改善を進め安全性を高める。	①「事故・不祥事ゼロプログラム」に則って、職員研修や啓発活動等を適宜実施し、継続的な注意喚起を推進する。 ②防災教育の継続性と内容の充実を図り、災害に対する防災意識の構築を推進する。既存の施設・設備の転倒防止措置を徹底するとともに、校内の危険箇所を総点検し、不慮の事故防止を推進する。	①「事故・不祥事ゼロプログラム」等を効果的に活用し、事故・不祥事を防止することができたか。 ②地域の環境にあった防災教育をすることができたか。校内行事とリンクさせることにより生徒一人ひとりの防災意識を効果的に高めることができたか。施設・設備の安全対策を強化することができたか。	①事故・不祥事防止に向け、県の職員啓発資料を活用し、毎月1回の点検を行うとともに、4月及び10月には職場研修会を実施した。また全定合同で、7月にAED心肺蘇生法研修会、1月に不祥事防止研修会を実施し、職員のスキルアップと意識の向上を図ることができた。 ②生徒向けのDIG訓練、防災研修会により学校周辺と経路地域、宅周辺のハザードマップの理解をすることができた。また、生徒一人ひとりの災害意識の構築を推進することができた。	①引き続き事故・不祥事防止に係る高い意識を維持できるよう研修等を行う。また個人情報・保管状況などのチェックを行い、改善すべき点の洗い出しを行い、より事故の起きにくい体制づくりを進める。 ②職員の防災意識の喚起や学校行事(礎定ウォーキング)などをうまく活用し職員生徒共に防災意識をさらに高めていく。	①職員の意識の向上を図る研修が実践され、事故不祥事防止に向け職員が一丸となって取り組んでいる様子が伺える。 ②生徒を対象とした防災教育も実践されている。「礎定ウォーキング」は本年度中止だったが、防災意識を高める指導も取り入れ学校行事として続けてほしい。なお、事故不祥事ゼロプログラム及び校内危険箇所の点検結果が、この評価の段階で不明で評価できない。今後は評価の際に明確に提示するようにしてほしい。	①事故不祥事防止に向けた取組として、職員啓発点検資料用いた取り組みを毎月実施したほか、全定合同の研修会も2回実施した。またAED心肺蘇生法研修会には、すべての職員が参加した。 ②防災教育については、学校から各生徒の自宅までの経路を、危険箇所を確認しながら地図上で辿るDIG訓練を実施したほか、夜間定時制であることから、校内の照明をすべて消灯した状態での避難訓練を本年度も実施するなど、防災意識を高める指導を実践した。	①職員の事故不祥事防止の意識を維持するため、様々な工夫を取り入れた取組を継続して実践する。 ②定時制では夜間の避難を想定した訓練は重要であり、今後も継続して実施する。停電時でも安全に避難ができるよう、階段などの経路に蓄光塗料が塗られたテープを貼り付けているが、劣化が進んでいる箇所は再整備を行う。また「礎定ウォーキング」では、長距離を歩いて非難する際のイメージ訓練を合わせて行うよう指導する。